

# 地域を知ろう

## 道・路・みち シリーズ

### No.1 荒玉水道道路

セシオン杉並の西側に荒玉水道道路が、まっすぐ世田谷方向に南下しています。

荒玉水道の名前にひかれ、みちシリーズの一号に取り上げてみました。この道路の起点、世田谷の喜多見からその歴史をひもといてみましょう。

大正12年の関東大震災の発生により、下町からの移住者が、激増して各地の地下水が欠乏し、苦しむ人たちが続出したため水道の緊急施行の声があがり、荒玉水道町村組合が、大正14年1月に設置され、大正15年12月に着工し、昭和6年9月に完成されました。

東京と神奈川県を流れる多摩川を水源として、東京府北多摩郡砧村大字喜多見に、集水場をつくり、豊多摩郡野方町および、北豊多摩郡上板橋大谷口に設置した給水場内、配水塔に送り、これにより給水区域内各町に配水しました。

杉並区内では昭和3年から給水を受け区上水道の先駆となりました。

「みち」辞書をひもとくと「み」は雅語で美称の接辞、「ち」は道の意とあります。地面のうち、人や動物が往來を繰り返すうちに踏み固められた、ある幅を持つ長いつながりをいう。また公共の往來・使用のために人為的開発・整備された地面と記されています。そしてどんな順序や方法で進んで行けば、どのような所に到達するかという見通しも意味します。私たちの居住する高円寺地域にも様々な用途によって作られた「みち」があります。今号から「みち」のシリーズをくみました。通い慣れた道、見慣れた路、そしてあまり知らないみちに目を向けてみたいと思います。

